

# 同窓会報



## 鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517

電話 代表 鳥羽(0599)25-3137

振替番号 名古屋5-846

### ごあいさつ

会長 西島好夫

一年のうち最も清々しい新緑の季節を迎えるに当りまして、会員の皆様方にはますます御壮健にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、かねてから皆様方にお計り申し上げて参りました同窓会創立六十周年もあと五十日あまりに迫りました。神戸・大阪支部の絶大な御協力のもと盛大な記念総会を迎えるべく、様々の計画が推進されつつあります。すでに皆様御承知のとおり、母校におきましては機関学科のクラスが今年度から電子機械工学科に改組になりました。開学以来始めて船員目的以外の学生が入学するという一大転換期を迎えたわけでありませう。

しかも今年度からは女子学生の入学も許可されるようになり、すでに六名の女子学生を迎えております。海員学校の統合など海洋界を取りまく環境は決して油断できない状態ではあります。我が国が島国である以上、海運がさらに低迷することは、我が国経済の急激な衰退以外には考えられないものと思われませう。私共同窓生は、母校の新しい門出に際して、一層の団結を以てその成り行きを監視すると共に、ますますの発展を希望して止まないものであります。皆様方と神戸での記念総会でお目に見えませうようお願い申し上げます。ごあいさつとします。

# 本部 便り

## 母校の学科改組

かねてからお知らせしてきましたように、母校においては、機関学科の二クラスのうち一クラスを陸上指向型の「電子機械工学科」と学科改組が正式に決定し、昭和六十年度新入生から、従来の航・機に加えて新学科が加わり、三学科制度となりました。

新しい学科は、五年間で終了することになりますので、卒業式は航・機とは別に行わざるを得ないこととなります。現在母校においては、新学科に対応しての学則の改正を始めとする校内規則の修正及び施設の整備が行われており、当分の間はあわただしい状況が続くものと思われまます。

学科の改組と同時に、新入生から自宅およびそれに準ずると認められたところからの通学制度が導入されたことから（航機についても同様）、寮制度そのものにも変更が起るのは止むを得ない現象と受けとめております。

新入生の場合航・機の学生については関東・関西等県外からの入学者がかなりの比率を占めていますが、新学科については殆んどが

県内からの入学者で占められているのが特徴です。

母校は長らく全寮制が続けられてきましたので、通学生に対する施設が用意されていませんので、今後クラブ活動等を推進するうえでも更衣室等が必要になり、とりあえず、現在ある施設のうち転用できるものを使用することになります。しかも今年度から女子の入学者も許可されたことにより、航海学科に三名、電子機械工学科に三名計六名の女子学生が入学し、女子学生に対する寮及び学内での施設でも本格的な施設ができるまでの間に合わせたな処置をとらざるを得ない状態が続いています。

なお校名については当分の間は現在の「鳥羽商船高等専門学校」のままということが決定していますが、前号でもお知らせしましたように、工業高専では、通常の各種学校である専門学校とまぎらわしい名前であるところから「専科大学」「専門大学」等への改称希望が強く、近く臨時教育制度審議会にも諮問される予定と聞いています。なお新学科は通称M科と呼ぶことが決定されています。

いずれにしても、二つの目的の異った学生が一つの学校で教育されしかも寮で生活するわけですから、従来とちがった問題が

起ることもあり得るわけで、母校にとっても本年は大変な年になりそうです。

別表に示した入学者出身地一覧表を見て気付くことは、東海四県すなわち三重、愛知、静岡、岐阜からの入学生については、N科の場合、昨年度とほぼ同様の割合であるのに対し、E・M科については、東海四県で五十九名と、昨年の四十五名を大きく上廻っており、特にM科に至っては三重県以外の入学者はわずか三名といった状況であることがわかる。

また阪神地区からの入学者についても、N科の場合は昨年の一六名から九名と半減しており、E・M科の場合は昨年の二十一名から八名と三分の一と極端に減っている。関東地区から東北にかけては昨年とほぼ同様な割合となっているが、学科改組によって、全国規模の入身者が、大きく低下したのは事実であり、母校の地盤沈下が目立つことが今後の大きな課題といえましよう。

云い変えれば、特色ある船員養成機関であった、かつての母校の姿は次第にうすれて行く予感がしてなりません。N科のみはかつて往年の状態を保っておりますが、通学が認められたことから、来年度以降はN科といえども樂觀は許されないように思われます。

母校がローカル校に地盤沈下する有様を見守る本部事務局は先輩諸兄に本当に申し訳けないと思っております。

入学者出身地一覧表

	昭和60年度			昭和59年度 (E科2クラスの計)	
	N	E	M	N	E
三重	7	17	37	5	27
愛知	7	3	0	6	12
静岡	3	2	0	2	6
岐阜	0	1	0	2	0
大京	4	3	0	9	7
和歌山	1	1	1	3	0
奈良	0	0	2	1	5
滋賀	2	0	0	2	2
兵庫	0	1	0	1	5
岡山	0	1	0	0	0
山梨	4	1	0	0	2
千葉	1	1	0	1	2
茨城	4	0	0	0	0
埼玉	1	0	0	0	0
鳥取	4	0	0	0	0
徳島	0	2	0	0	0
香川	0	1	0	1	0
高松	1	0	0	0	0
愛媛	0	0	0	0	0
高知	0	0	0	0	0
計	37	34	40	37	71

## 母校の授業

### カリキュラム

STCW条約批准に基づく船員制度の改善に対応して、母校においては昭和五十八年度から航・機両用教育が実施されております。

そこで、先輩諸兄にも知って頂くため現在のカリキュラムについて報告したいと思います。

N科については専用科目中に原動機、機関管理等がまたE科については運用学、航海学、航海法規等が組込まれていることにお気付き願えると思います。

昭和五十八年度及び五十九年度入学のE科生は二クラスのため、N科の教官はE科の授業の方が多という珍現象が起っております。

自分専門が何であるかわからない程いろいろな授業を三年半の間やらざるを得ないことになりました。

今年度からは一クラスとなりましてから三年半後には現在のような特殊事情は改良される筈であります。

先輩諸兄にはあまり興味もないと思いますが、新設の電子機械工学科のカリキュラムについてもついでに報告させていただきます。

一般教育については、人文・社会分野において、N・E科は十五単位であるのに対し、M科では十三単位と減っており、反対にN・E科では十六単位の教育がM科では十七単位、またN・E科では三単位の外国語がM科では四単位に増加しています。第二外国語はドイツ語に限定されているのも特徴です。

専門科目については、E科ともかなり異った授業科目が用意されておりまして、力学、数学等の時数が増加していること、電子、電気関係については新しい科目が設けられていることがわかります。M科の授業内容は電子が四、機械が六の割合で構成されております。

専 門 科 目 (機関学科)

Table with columns for subject, units, and year distribution (1-5 years) for the Mechanical Engineering department. Includes subjects like Applied Mathematics, Information Processing, and Ship Safety.

専 門 科 目 (航海学科)

Table with columns for subject, units, and year distribution (1-5 years) for the Maritime Studies department. Includes subjects like Applied Mathematics, Information Processing, and Ship Safety.

一 般 科 目 (航海学科・機関学科共通)

Table with columns for subject, units, and year distribution (1-5 years) for general subjects. Includes Japanese, English, History, and Science.

専 門 科 目 (電子工学科)

Table with columns for subject, units, and year distribution (1-5 years) for the Electronic Engineering department. Includes subjects like Applied Mathematics, Information Processing, and Ship Safety.

一般科目 (電子機械工学科)

授業科目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語	9	3	3	2	1		
現 代 社 会 哲 学	4		2	2			
法 学 経 済 学	2				1	1	
歴 史	4	2	2				
地 理	2	2					
数 学	17	7	7	3			
物 理 学	5	2	3				
化 学	5	3	2				
生 物 ・ 地 学	2	2					
保 健 ・ 体 育	10	3	2	2	2	1	
書 道	2	2					* 3科目のうちいずれか 1科目選択
美 術	2	2					
音 楽	2	2					
英 語	18	6	5	2	3	2	
ド イ ツ 語	4			2	2		
計	85	32	26	13	10	4	

特別教育活動	単 位 時 間	学 年 別 配 当				
		1年	2年	3年	4年	5年
	90	30	30	30		

小島副会長御逝去

昨年六月に開催されました、本部総会に出席の途中、国鉄名古屋駅で突如中風で倒られました。小島副会長は、東京に帰られ順調に回復されており「リハビリ」に勢を出しておられました。寒さのためか急激に体調をくずされ、帰らぬ人となりました。

二月九日 自宅で挙行されました。

た告別式には浦田、押尾副会長を始め京浜支部の理事を中心とする多数の同窓会員が参列いたしました。

本部からは西島会長に替って私がお悔みに上りました。

激しい雨に見舞われ和田全航協会長を始め参列された多数の会員の皆様ともゆつくり話す機会のなままに失礼いたしましたことをお詫び申し上げます。

温厚だった小島副会長の人柄をしのんで多数の花輪と二百人に及ぶ参列者がありました事を報告いたします。

なお支部長の後任としては、とりあえず浅野理事が代行されることになりました。

谷口元副会長御逝去

昨春秋以来、体調をくずしておられました谷口元副会長が四月六日未明逝去されました。伊勢市船江山の新居に移られてお元気に暮らしておられました。寒さが激しくなると体調をくずされ、食欲が低下したのが命取りとなった感じが致します。

四月はじめ突然病状が悪化、慶応病院に緊急入院され集中看護室に入られて一時小康状態が続き、先生のお話しでは大丈夫ということとで、斎藤理事と御見舞に参上した折も安心して帰りましたが、静脈りゅうの破裂という予期せぬ事態により永遠の眠りにつかれました。

以前手術され心配しておられたガンは解剖の結果全く転移していなかったという事で、まことに残念の極みといえます。

昭和十四年に母校E科教官として招かれ昭和四十一年に教頭を最後に退官されました後も、同窓会活動を生きがいとしてこられた当時のおもかげがしのばれてなりません。

昨秋以来西島会長はじめ本部理事が交互にお見舞に上つて元気づけをして参りましたが、八十三才といえど天寿を全うされたといつて、あきらめざるを得ません。

恩師の最後を賑やかに送りしようではないかという須永本部長

事の呼びかけにより多数地元会員が四月九日に自宅での葬儀に参列しました。各支部や多くのクラスから花輪を送って頂きあたたかも同窓会葬のような感じを受けるほどでした。

会長の弔辞に続いて参列した会員が温厚だった恩師に最後のお別れをいたしました。

学年始めという一番悪い時機と重なったこともあり、母校からの現役参列者が坂航海学科主任一人という状況でしたがこれも時代の流れといわざるを得ません。

参列された遠方からの支部代表から母校の花輪が見当たらないとの指摘を受けましたが、現在の母校の複雑な事情を説明することも出来ず残念でなりません。

長年母校のためにつくされ、母校と同窓会のかけ橋として重要な役割を果たしてこられた谷口元副会長に対し、心からお詫び申し上げます。次第であります。

函館支部会員に

救援の手を

海底トンネルの開通に伴い青函連絡船の将来に暗い影がしのび込んできました。最終的には青函連絡船は三隻に減船される方針が出されているようですが、船舶職員として入社した会員が、配置転換することはないとしても、こうした変動期には不利な取り扱いを受

ける人が出てくるものです。現にフェリー界に転職希望が本部宛に送られております。

本部としては、出来るだけ希望に添えるように努力をしております。すでに何名かに直接および間接的に転職先をお世話しておりますが、会員の皆様方にはよい条件の就職先情報をお持ちの方も多いと思われま。官庁・準官庁(町団を含む)、フェリー会社等に強い希望がもたれておりますので、本部宛に御連絡下さいますようお願いいたします。(落合理事記)

船員教育機関の規模見直し

規模見直し

海事新聞四月三日付の記事に、船員教育機関の見直しについて二つ取り上げられていました。「海員学校の整理・再編」

運輸省は関係官庁と海員学校の整理・再編問題で協議を行っていたが、学校数は最低二校を廃止、定員を削減、前向きに学制改革を進めるとの方針が決まりました。これにより、海員学校は現在の十校から八校以下(この数が問題である)に縮減されます。今後行政監察を踏まえ具体的な廃止校、また学制改革の骨子など基本的内容を定めることとなります。整理・再編問題は、臨調の管中によって運輸省と大蔵省・総務庁の間で進められたもので、同時に運輸省で

は海員学校の学制改革についても話し合いを進めております。

海員学校は、現在小樽・唐津・宮古・口之津・粟島・清水・館山・村上・沖繩・そして内航船員養成

の波方の計十校があります。すでに昭和五十三年に定員九百三十人を七百人に削減、さらに昭和五十六年に七尾・児島・門司の三校を海技大学校分校には海上保安学校分校に移管し、定員も五百人に削減しており、今回は第三回目となるわけです。

大蔵省及び総務庁では定員の二十五パーセント減、廃止校三校以上を主張し、運輸省との折衝において中長期的な船員需要・応募・就職状況を勘案して最低二校を廃止校とし、定員を削減することで意見が一致しました。

現在海員学校に関する行政監察が行われており、今月中に勧告が出される見込みでこれを踏まえ最終的な廃止校数、対象校など基本的な内容が決定される方針です。この場合波方は除外されることになっております。

一方学制改革では、「海上安全船員教育審議会」の「教育部会」が、現在中卒二年の高等科を中卒三年とし、中卒一年の同厨科を高卒一年とするなどの教育レベルの引き上げを主眼とした改革案が検討されており、ほぼこの方向が認められる見通しです。

運輸省は海員学校の廃止校・再編・学制改革に伴う具体的なカリキュラムなどについては遅くとも

五月中旬までには決定する方針といわれます。

「航海訓練所・海技大学校・商船高専も規模縮小」

四月三日付の海事新聞によれば運輸省海上技術安全局の武石章船員部長は、四月二日記者会見を行って、船員教育制度に関連して気にかかると発言をしていることがわかりました。その内容は、海員学校に続いて、航海訓練所・海技大学校、そして商船高専の規模見直しなどが今後具体的な論議となるだろうと発言している点です。

この中で富山商船高専のE科などで、応募者が定員に満たないケースが出ており、なんらかの対応が必要となってくるものと思われる。文部省でも内部的な検討を進めているようだがともかなり具体的な発言が心配を呼んでいます。

なお武石部長は船員問題にもふれ、海造審の本答申に基いて、摩擦的に出てくるものには行政として対処していくと強気の発言もされております。

### 女子学生の入学

明治十四年以来、百四年目にして初めて女性に門戸を開放した母校に、おおかたの予想に反して六名の女子学生が入学し、合格発表以来マスコミの取材に関係者は大変な様子でした。

NHKのテレビ放送では、西島会長も取材され、多少面くらった

感じて応対されている模様が伺われました。入学式当日もテレビおよび新聞各社が取材合戦の様子を写し、いささか行き過ぎの感じを受けました。

女子学生が入学したのは、N科が三名、M科が三名で、出身地はN科の学生は静岡県が一名、愛知県が二名で、M科の学生はいずれも三重県でした。

このうち五名が入寮し、暫定的に女子学生寮となった職員会館に収容し、専任の二名の寮母が宿直する方法で寮生活を実施しています。明年度以降はこの分で女子学生が入寮することも予想され、三十名程度を収容できる女子学生寮が必要になるわけですが、新しく建設するには予算的処置がむずかしいとのことから、白菊寮の西寮を女子学生寮に改造する方向で

文部省との折衝が行われています。もし改造許可がおりた場合は、夏休み後あたりから改造工事が行われる見通しです。なお他の五校にも女子学生が入学したことが報告され、広島ではM科の十五名が女子で占められたということです。

### 全寮制度の改革

長年全寮制を採用してきた母校においては、M科の新設に伴いM科には地元からの学生が多数入学したことから、立前は全寮制であるが新入生から自宅又は叔父・叔母等の家からの通学が認められました。

現在通学生は二十六名で、バスや電車で通学しております。今後寮生と通学生との間のクラブ活動を通じての触和など、従来経験しなかつた種々の問題が起ってくるものと思われまふ。



あいの楽しい一夜を過ごした。当日は、母校から矢島新校長と落合教授が、また戦時中母校の教官で現東海大教授の茂在寅男氏が来賓として出席された。

矢島校長からは現在すすめられている商船高専の各学科改組のこと、落合教授からは六十年六月神戸で開かれる予定の同窓会六周年記念の総会のこと、茂在教授からは戦時中の在校当時の思い出などの話があった。そして、支部報告のあと、小島支部長が長期入院療養のため、支部長代行として浅野理事があたることが報告された。

約二時間にわたり歓談の後、来年の再会を約し八時頃散会した。

最近ではクラス会が盛んで、支部總會の方に出席される人は少なくなりました。しかし、こちらはクラス会とは別の雰囲気があり、いろいろな情報も得られます。会員の移動が激しく、通知もれの人が相当ありますが、次回も十一月下旬の予定です。たまにはご出席下さい。以上が支部總會の概況です。

(出席者)

- 江崎広治、平光五一、神田邦郎、倉橋善正、浦田楠雄、望月武夫、松岡秀次、押尾定夫、佐藤静雄、青木佐加男、小林勝、浅野和昭、根本明、下村甚一郎、宇佐美昭生、安田敬、金子昭、細井良一、金子隆、島上健、久具浩、李家正晃、林幹夫、片岡久雄、小山逸男、中島史稜、永田尚司、千々波天信、菊地正弘、塚越健一、岩田和雄、山口義治、野田芳樹、林郁夫、上

## 支部便り

### 東京支部

昭和五十九年十一月三十日(金)夜六時、東京ステーションホテルにおいて恒例の支部総会が開催された。出席者は五十五人で和気あ

山浩、山本保夫、松尾尚明、辻裕、尾鷲綱三、小野斗章、武部二三男、上総正博、沓間弘雄、飯島寿、藤井国男、福原寛、浜口猛、榎本敬、早川正樹、熊谷欣樹、岡田和泰、田中靖侍。(浅野記)

### 京浜支部の皆さんへ

京浜支部は同窓生が約六百人と一番多く居住しているマンモス支部です。四年前に母校創基百年の記念行事が終り、当面の目標が無くなったためか、このところ支部総会の出席者は五、六十人を低迷しています。

五十年に支部在任者の名簿を発行した時は支部総会に百十人も出席者がありました。支部に関心が薄くなってきた原因は、目標的な行事が無くなったことか、クラス会が盛んになってそちらに中心が移りつつあること、年代の巾があり過ぎること、職場の少人数化で仕事が忙し過ぎ余裕がなくなってきたこと等ではないかと考えられます。

しかし、最も大きな原因は東京と横浜に職場と住居が分散し、広すぎて一カ所に集まりにくいことではないでしょうか。同窓会の目的は、会則にうたわれているように、

一、会員相互の親睦並びに人格の

向上を図る。二、常に母校と同窓会員の連絡を密にし、母校の繁栄を図り、ひいては我が国海運の発展に寄与する。

とあります。そのために京浜支部は同窓会随一のマンモス支部としての責任をはたして行きたいと考える次第です。

ご承知の通り本年六月三日(日)に創立六十周年記念の同窓会の総会が開かれます。それに続いて六十二年には東京でも総会の開催が予定されています。

主催支部として、この総会を大成功させなければなりません。また、開催の準備をととのえるためには、支部会員の皆さんの絶大なご協力を必要と致します。それには支部の組織と体制の強化が先決問題であり、会員に親しまれる支部づくりが望ましいと思えます。支部活性化の方法として、支部総会を東京と横浜で交互に開くと、支部を二つに分けるとか方策はいろいろあると考えられます。何れアンケート調査等も行ないたいと思います。取りあえず会員の皆さんの率直なるご意見を支部事務局(岡田商船・野田理事、電二五八―一四七一)なり、京浜在住の副会長・理事にもお寄せ下さいますよう紙上をかりてお願い申し上げます。(浅野記)

### 名古屋支部

#### 役員交代について

謹啓。春たけなわの好季、御清勝のことお慶び申し上げます。

卒業時同窓会活動に種々ご尽力頂いておりますこと厚く御礼申し上げます。谷口先生の告別式には、本部の皆さんご苦勞様でした。

学校も新学科設置、女子学生の入学など話題の多い第一年目となり何かと御苦勞の多いことと存じます。

さて当名古屋支部の市江義治氏(支部長)齋藤宗正氏(理事)の両氏が共に三月三十一日付で勤務先を退職され、これを機に本部署(支部長)を辞任したいとの申し出がありました。そこで山崎理事の名で役員会を開き(四月十八日)協議の上、右の辞任を了承すると共に後任を選任し、名古屋支部としての新しい構成を次のように決定しましたので御報告します。新しい理事の任期は六十一年三月末となります。(前任者の残存任期)

- 支部長 S 16 N 山崎 修(現) 委員長
- S 19 N 山本太郎(現) 会長代理
- S 21 N 羽根田勉(現) "
- S 26 N 磯村昭夫(新) 副会長
- S 38 N 船橋晴雄(現) "
- S 43 N 小林正司(新) "
- S 28 E 中村研一(現) "

なお前支部長市江氏について、名古屋会としては顧問として遇する

ことにしておりますが、同窓会関係の役員、支部長としての期間などから本部顧問としてご承認頂けるようお願い申し上げます。六月二日の同窓会総会は従って山崎さんが支部長として出席されることとなります。(山本理事記)

### 伊勢志摩支部

#### 同窓教官および元・現派遣教官大集合

#### 海運界や母校を取りまく暗い話が多い今日この頃ですが、春の一夜を楽しく過ごそうと、同窓の教官および派遣教官の大集合をはかりました。三月五日夜、プロパー教官三名、現派遣教官四名、元派遣教官三名の十名が大いに飲み大いに語り、お互いの今後の健闘を誓い合いました。昨年二月にもこうした試みを行ない、母校の現状に対する認識を深め合いましたが、今後も定期的に懇親の場を持つことを話し合いました。今後の会場も昨年・今年同様同窓教官の古株落合が招待する形で行うことになっております。

当日の出席者 N科落合弘明、中村武史、高木春男、小山道夫、瀬能明、E科齋藤隆、山本雅拾の現職と、N科鈴木秀司、岡本吉範、E科橋本晴行の元派遣教官で、N科大川環さんが叔母さんの病氣悪化で急に参加不可能になったのは



伊勢市 中村旅館にて



重ね重ね残念でした。

### 西井 東会員

#### 全国優秀警察職員に

S 23 E の西井東会員は、昭和十四年以來三重県警の職員(事務官)として勤務され、主として鳥

# 学校便り

羽署に勤務されていますが、全国優秀警察職員に選ばれ、三月二十九日東京の半蔵門会館においての表彰式で功労賞を受けられました。おめでとうございます。

母校所在地の警察署に勤務されておられるだけに、自氏の今後の一層の活躍をお祈りする次第であります。  
(落合理事記)

昭和五十九年十二月～六十年四月 よう。

## ◎入学試験

二月四日(月)、推薦入学面接試験が本校で行われ、志願者四十四名(N科十二名・E科六名・M科二十六名)の中から二十一名(N科八名・E科五名・M科八名)が合格しました。

入学学力検査は、二月二十四日(日)に本校・仙台・東京・名古屋・大阪の五ヶ所で行われました。本年の入学志願者数は、電子機械工学科の新設により急増し、二百八十一名(内推薦入学不合格の二十二名を含む)となりました。学力検査実質倍率は、二・八倍(N科二倍・E科一・三倍・M科五・三倍)と昨年の倍近くになり、推薦を含め百二十四名(N科四十名・E科四十名・M科四十名)が合格しました。しかし、公立高校の合格発表に伴い、上位成績の辞退者が続出し、N科十一名・E科二十一名・M科十五名の多きに達したことは、相変らず厳しい商船界の現実を反映していると申せまし

◎見学者の来校  
一月三十日(水)、コロンボ計画による船員教育施設見学案内計画(国際協力事業団が外務省の委託を受け、開発途上国の船舶関係要員に対し、我が国の船員教育施設を見学させるもの)の一環として、フィリピン国立航海技術訓練所所長(Captain)のベンジャミン・M・タネド氏(五十七才)が来校されました。午前十時から二時間にわたり、電子航法関係施設・機器、シミュレーション関係施設を中心に、本校施設全般を熱心に見学していかれました。

入学式は、四月十日(水)に本校第二体育館で挙行され、晴れてN科三十七名・E科三十四名・M科四十名・合計百十一名の新入生が入学しました。新学科設立と女子の入学(N科三名・M科三名)と一大変革を迎えたため、マスコミの取材の多い、にぎやかな式となりました。

二月十二日(火)、ロープ切断問題の権威者として知られる元鈴鹿工業高専教授・現石岡高所安全研究所長の石岡繁雄先生をお迎えして、「ホーサーの切断原因について」の講演をしていただきました。先生は、御実弟(作家井上靖の小説「永壁」のモデル)を北アルプス前穂高でナイロシザイル切断事故により亡くされたことをきっかけに、ロープ切断原因の究明と安全具の開始に打ち込まれている方です。

学生は、実務的かつ興味深い先生のお話しに、深く感銘を受けました。

◎新任教官  
四月一日、次の六名の教官が就任されました。

- 庄野英博教官(昭和三十九年九月神戸商船大学商船学部航海学科卒業・大阪商船三井船舶KK・徳島市出身・本校航海学科助教として就任)
- 奥山京教官(昭和五十五年三月北海道大学大学院理学研究科数学専攻終了・埼玉県立狭山工業高校・津市出身・本校一般教育講師として就任)
- 桐山和彦教官(昭和五十四年三月福井大学大学院工学研究科応用物理学専攻終了・日立青梅電子エンジニアリングKK・財団法人日本システム開発研究所・本校電子機械工学科助手として就任)
- 佐藤久米男教官(昭和四十九年九月本校機関学科卒業・新和海運KKから派遣・西伊豆町出身・本校機関学科助手として就任)
- 黒崎雅彦教官(昭和五十二年九月本校航海学科卒業・三光汽船KKから派遣・四日市出身・本校航海学科助手及び鳥羽丸二等航海士として就任)
- 豊田敦彦教官(昭和五十五年九月本校機関学科卒業・三光汽船KKから派遣・横浜市出身・本校機関学科助手として就任)

◎退任教官  
三月三十一日、次の六名の教官が退官されました。

- 黒田敏教官(東京高等師範学校理科第一部卒業後、昭和四十四年四月一日から十六年間本校数学教官として勤務され、停年退職されました。退職後の住所は左記のとおりです。)
- 〒一六五 東京都中野区沼袋 四一三〇一四
- 有江龍太郎教官(旅順工科大学機械工学科卒業後、昭和五十年十一月一日から九年半本校応用数学教官として勤務され、停年退職されました。なお、引き続き非常勤講師として本校に勤務されております。住所は左記。)
- 〒五〇一―三三 岐阜市大洞桜 台四―三四
- 高木春男教官(本校航海学科卒業後、昭和五十八年四月一日から二年間の任期を終え、日本郵船KKに海上復帰。住所は左記。)
- 〒三七九―〇二 群馬県甘楽郡 妙義町諸戸四三〇―一

○山本雅拾教官(本校機関学科卒業後、昭和五十八年四月一日から二年間の任期を終え、三光汽船KKに海上復帰。住所は左記。)

〒五一七―〇四 志摩郡浜島町 浜島一七八七―三三

○瀬能明教官(本校航海学科卒業後、昭和五十七年十月一日から二年半の任期を終え、三光汽船KKに海上復帰。住所は左記。)

〒三〇〇 茨城県土浦市真鍋新 町二〇―二二

○田中洋一郎教官(東京商船大学商船学部機関科卒業後、昭和五十八年四月一日から二年間の任期を終え、日本郵船KKに海上復帰。住所は左記のとおりです。)

〒八三〇 福岡県久留米市高良 内町三八〇―九二

六教官の今後の御健康と御活躍を祈っています。  
(中村本部長理事記)

## クラス会

### 昭和十九年卒

#### 三〇〇(61期クラス会)

昭和十九年卒の第七回クラス会が昭和五十九年九月十四日(金)夜、岐阜市長良川のほとり長良館で開催された。

前回の神戸市「舞子ピラ」で開催の折、次回は中京地区の岐阜という希望が多く、地元でもあり、クラス会事務局を担当している山





## 同窓会創立60周年記念誌発行の御案内

かねてからお知らせして参りましたように、会員の皆様方から原稿を頂戴いたしましたものを中心として、記念誌を発行すべく目下編集集中であります。

来る6月2日に開催されます創立60周年記念総会に間に合やす予定です。会員の皆様のお手許に1冊置いて頂ければ幸甚と存じます。

同封の振替用紙にて御注文下さいますようお願い申し上げます。

代金は送料込みで2,500円です。

### 同窓会創立60周年記念

## 昭和60年度本部総会の御案内

昭和60年は、同窓会が創立されて60周年に当たりますので、かねてから御案内いたして参りましたように、発祥の地神戸において盛大に総会を開催し、引続いて祝賀会を持ちたいと思っております。御多忙中とは存じますが会員皆様の御出席をお願い申し上げます。

昭和60年 4月25日

鳥羽商船同窓会長  
西島好夫

日時 昭和60年6月2日(日)

場所 神戸市三の宮ニューポートホテル Tel 078-231-4171

●総会：六甲の間(中ホール) 正午～13時

- 議題
1. 昭和59年度会務報告
  2. 昭和59年度会計報告
  3. 役員改選
  4. 昭和60年度事業計画
  5. その他

●祝賀会：クリエイティブ・ホール(大ホール) 13時～15時30分

津軽じょんがら、手品、歌謡曲、サンバなどアトラクションが多数用意されます。料理・飲物も充分用意されます。

会費 5,000円

★準備の都合もありますので同封のハガキにて出欠をお知らせ下さいますようお願い申し上げます。 〆切日：5月25日

★なお欠席の方も委任状をお願い申し上げます。今後の連絡上重要ですので、必ず御返送賜りますようお願い申し上げます。